静岡文化情報

街かど

No.7

1996.10

舞楽「蘭陵王」

古式神楽「三宝の舞」

財団法人 静岡市文化振興財団

CONTENTS

駿府学のすすめ

駿府と水——駿河古文書会理事——黒　澤　　脩……1

市民の声——清流——松永信一郎

市民の声——横内川——三枝幸一郎

ふるさと発見

梅ヶ島——日影山金山——赤堀俊道……4

初午祭——小泉　保……5

文化のルーツを求めて⑦

伝統を受け継ぐ——中塚古式神楽——勝山政江……6

がんばっています市民の文化活動……8

ガラス芸術による美の追求ーステンドグラス　白鳥貴美恵

8年目を迎えた瓢箪栽培と加工　海瀬貫一

日本の伝統ある”雅楽”に触れながら　牧田明子

この秋、静岡音楽館AOI——学芸員　小林　旬……10

芹沢銈介美術館通信……11

静岡市立児童会館……11

INFORMATION……12

静岡市立児童会館、静岡市文化振興財団

編集後記……13

● 駿府学のすすめ ①

駿府と水

昔、安倍川と藁科川は、上流から下流に至るまで別々に流れていたことを知っていますか。

静岡には大古より大きな川の流れが二つあり、一つが安倍川でもう一つが木枯の森で知られる藁科川である。古き安倍川の流れは、今日の我々の想像を絶した形で自由自在に流れていたと思われる。

（黒澤脩著「徳川家康と駿府城下町」より）

治　水　安倍川の流れが変わります。

徳川家康が駿府を大御所と定めて自らの居城とするため「駿府城」を築城したが、安倍川の慢性的洪水で、たえず駿府の街が悩まされ、同時に、洪水から駿府城を守るため、従来の安倍川の流路をかなり西に移し藁科川と合流させるための工事を薩摩（さつま）藩に命じたといわれている。

（黒澤脩著「徳川家康と駿府城下町」より）

この工事で築かれた堤防「薩摩土手」を手はじめにして、以後、たくさんの土手が築かれました。梅ヶ島方面や藁科方面へ行くと、山すそから川に向けて突き出した土手を見ることができます。この土手は雁行性堰堤（えんてい）と言われますが、特色あるものです。

なお、この堤防を築くにあたって、作業しながら唄われたものに「安倍川粘土つき唄」があります。これについてはまた後でふれることにいたします。

名　水　「日本の名水」の中に安倍川、藁科川の水があげられているのを知っていますか。

南アルプス山系から豊かな水が安倍川によって運ばれ、市内の地下を豊富な伏流水が流れ、町のどこでも井戸さえ掘れば良質の水が得られた。また、井戸を掘らなくとも、伏流水が地表に湧れ出し泉を形成していた地域もあったという。徳川家康が駿府を隠居の地と定めた理由の一つがここにある。　（黒澤脩著「徳川家康と駿府城下町」より）

● 市民の声

清流（日本一の川づくり）

安倍藁科川漁業組合放流委員長

松永信一郎

この安倍・藁科川は水質が日本一であり、四月頃には鮎が遡（そ）上し、盛夏の頃には多くの釣人が遠方からも訪れ、バーベキューなど手軽に川遊びが出来る場所として賑わう自然の社交場である。

今、静岡市は「人の集まるまちづくり」をテーマに、都市整備を行なっているようであるが、この川で育った私は、私等の世代が子供の時に楽しく川で遊び、学び、そして暮らしたという事実を今の子供達に体験してもらいたいと思う。そして、子供達が、「生き生きと集まってくる川づくり」に行政と私達が手をつないで、自然環境の保護に努め、いつまでもきれいな川を守っていきたいものである。

現在の水落の水門

用　水　「横内川用水路」の上を今は、たくさんの車が走っているのを知っていますか。

豊かな水は、駿府用水として、駿府城の堀に落とされた。余り水は、消火や灌漑（かんがい）用の水として使われた。横内川用水路は、運河の役割をしていた。

堀からあふれた水が落下して、横内川に通じていた。水落の地名が生まれたわけである。　（黒澤脩著「徳川家康と駿府城下町」より）

「えっ、ここに川があったの。」北街道の真ん中に川があるなんて、信じられないかもしれません。まして、物資をのせた小舟が行き交っていたなんて、ますます信じられないかもしれません。

● 市民の声

「川と共に」の思い出

横内町「ミエダ靴店」　**三枝幸一郎**

横内川は、昔の話では駿府城に物資を運んでいたそうです。本当にきれいな水でした。付近の町民も川を愛し、ゴミなど捨てる人など一人もいませんでした。川筋には染め物屋が何軒もあり、川の水で洗い張りをしていました。私の隣「うなぎ屋」さんもビクに生きたうなぎを入れ、川に浮かして水槽がわりに使っていました。夏には川端に縁台など出して将棋を指す人、花火で歓声をあげる子ども等、本当に隣近所のコミュニケーションのいこいの場所でした。水辺にはホタルが飛び交い、秋にはトンボが羽を休め、水の中は、小魚、川藻がいっぱいでした。子どものころ、川と共に生活した思い出がいっぱいです。

小生店の中に、当時の写真を飾ってありますが、若い人たちが、ここに川があったの、と、とてもびっくりします。これからも、横内川のいわれなど説明して末長く残したいと思います。

昭和６年当時の横内町68番地付近の風景「ミエダ靴店」蔵

● ふるさと発見

梅ヶ島

静岡市街から安倍川沿いに県道を約40キロ北上すると安倍奥の山里梅ヶ島である。八紘嶺、山伏等の山ふところから溢れ出した水は、時には優しい音を奏で、時には雄叫びをあげて吠えた。そんな水との関わりから生まれた二つの歴史を取り上げてみた。

日影沢金山

金掘人夫の夢のあと

赤堀俊道

梅ヶ島温泉より３キロ程南に「梅ヶ島金山バス停」がある。ここから日影沢沿いに１キロ程山の中に入ると日影沢金山跡がある。

今も残る当時の言い伝えを村の古老が「日に壱両の手間が三年間も続き、日に壱分の手間が13年続いた。一口壱分のご馳走で一杯やっていた。」「家康公より五三条の御墨付を頂き、諸国関所は自由に往来し、名字帯刀を許され、自らを野武士と称し気位も高かった。自分の先祖は金掘百姓でも格が一段上だ。」と誇らかに話すのである。

以前、坑道に入ったことがある。懐中電燈を持ち、四つんばいになり、常に落盤の恐怖と指先もちぎれるような冷たい流水の中に、金掘人夫達の苦渋にみちた厳しい労働条件の中での、精魂こめた坑道掘の執念が伝わってくるのである。今では廃坑道の跡と塔中の尾根に無数に残る金掘衆の苔むした墓が、かつての栄華を偲ばせるのみである。

連絡先　静岡市梅ヶ島545　TEL 269－2234

150年祭を迎えた

初午

新田稲荷神社初午祭

小泉　保

新田稲荷神社は、部落を一望に見下ろす山の中腹にあります。今から百五十年前、この村に疫病がはやり村の人達が困ったそうです。その時、この村から出家された龍爪見大和尚さんが、お稲荷さんを祀ってくださったそうです。旧の二月の始めての午の日に、おそばを作り、二夜三日のお祭りをするように申されたそうです。来年は、百五十年祭を行います。今は、三月の第二土曜日を、初午祭としています。

主な行事として数々の神楽を奉納しています。春近いころ、山里に響く、笛や太鼓の音をいつまでも続けていきたいものと思います。

年よりのみならず、若者も幼い子どもも、この祭りを楽しみに、日ごろの練習に励み、当日の準備に力を合わせます。心のつながりをうれしく思っております。

連絡先　静岡市梅ヶ島5571　TEL 269－2228

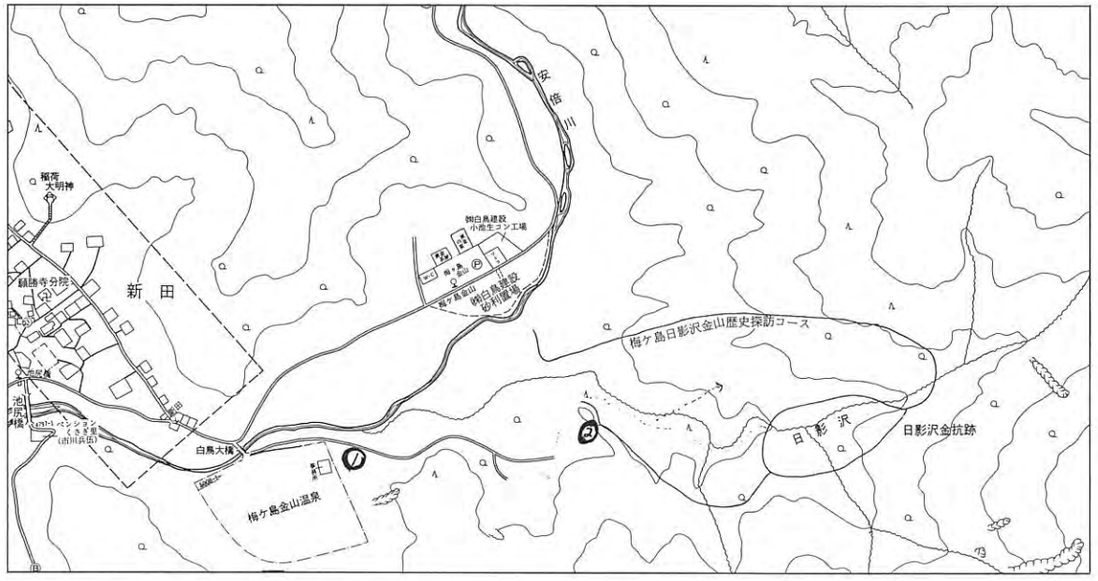
日影沢金山探訪コース（30分）

白鳥橋 ―車― ①魚魚の里（金山温泉）―徒歩（運動靴）― ②山道（杉・檜林）―（10分）― 頂上 ―ベンチ― 頂上

―― 丸木橋（下り）（定員2名）―― 八幡神社 庚申塔 史跡（昔の集落）―― 神楽を舞う建物（市が建設）

―― 金坑跡 ―― ふもと ―― 川沿いの道 ―― 出発点

※このコースは、地図に示されたコースとは、部分的に違っています。



● 文化のルーツを求めて ⑦

伝統を受け継ぐ

中塚古式神楽 勝山政江

静岡駅より車で50分、362号線を千頭に向かって走ると中塚に到着する。

毎年10月14日の夜、中塚子之神社から神楽の拍子が聞こえてくる。ここ中塚子之神社では中塚10戸、蛇塚13戸の氏子によって春秋二回の祭典がある。秋祭り10月15日の前夜祭14日には、およそ四百年も昔から伝えられてきた、十数種類の中塚古式神楽を奉納する。

参道を登った宮森に子之神社が見え、拝殿はもとより、境内は多勢の人でいっぱいである。この神楽は多くの人に興味を持たれ、遠くから訪れる人も年々増えている。その中で、8時から始まる前夜祭の最初に氏子の五穀豊穣と健康を願うお祓の儀式（主人がやる）の後、順の舞を初めに三宝、八幡、太刀と次々に舞が奉納され最後の大弓の舞が終わる頃はもう翌朝になっているのである。古式神楽のルーツは裏付けとなる文書もなく定かではないが、県の無形民俗文化財の梅津神楽と関わりがある。神楽の拍子や舞、神楽面が似ていることや、梅津神楽の書物によると「梅津神楽面は勝山家よりゆずり受けたもの」と記してあり神職勝山伊勢正が彫刻したものとされている。昔私の家で保管していた勝山家に伝わる神楽面（殿、宇須売、翁、道化）の破損を見ればずい分永い年月を経ていることがわかる。また、神社帳によると、この子之神社が寛文八年（1668）に現在地に建てられたと記してある。子之神社は勝山家の氏神だったとも言われているので、現在地に建てられる以前にどのくらいの年月を数えたものかわからないが、勝山家は元公家であったということで、京の都を追われ中塚の地に住みついたと代々聞かされている。公家の遊びであった神楽を舞っては故郷を偲んだのが始まりではないかと言われている。それを実証する手がかりとしては、他地域の神楽は天井にくもの巣のように縄を張り5色の切紙を付けるが、中塚古式神楽は、縄を碁盤の目のように張り、5色の切り紙を付ける。この碁盤の目が京の街を表しているのだという。

勝山家は15代目までが神主をしていたが、中塚の勝山家（本家）はとうに滅してしまい現在は17代で分家した私の家（蛇塚）と中塚の勝山良平の2軒のみが勝山家として残っている。私の家は代々この神楽を守り継がなければならないと伝えられ、曽祖父、勝山京助、祖父、栄太郎、父、金一と伝えられてからも、もう百年を経ているというのに型が変わらず受け継がれてきた事も誇りに思っている。しかし、4代目の私が女の子であったため継続はあきらめたようだ。なぜなら当時は、女は神前に出るものではないと言われていたからである。

その頃は、父の年代の後継者で足りていたが年を重ねる毎に、若い後継者を養成しなければならないと育成をしたのが15年ほど前になる。私は小さい時から神楽に興味がありどうしてもやってみたいと思っていたので、20才を機に笛の名人と言われた亡き祖父から習い、今は毎年前夜祭には舞と笛を奉納させてもらっている。勝山家の後取りとして役を果たすことができ、うれしいことに、主人も村の後継者の一員として神楽を受け継いでくれている。

残念な事に生き字引であり、神を信仰し、神楽を愛し続けた父も今年二月若くして他界してしまった。およそ四百年の歴史があると推測されるこの神楽が曽祖父、祖父、父へと受け継がれてきた。私もその後を継ぎ、村の後継者、主人と共にずっと守り続けていきたい。そして末の世までも継がれていくことを願っている。

連絡先　静岡市黒俣2940　TEL 295－3647

「お祓の儀式」　故 勝山金一氏

地元保存会の人たち

勝山政江氏プロフィール

「順の舞」を舞う筆者

1951年、静岡市黒俣（蛇塚）生まれ
東京文化学苑通信課程卒
1969年より公立学校事務職員として勤務（現在静岡市立中藁科小学校小布杉分校）
中塚古式神楽保存会の一員として伝統を守っている。(峰山小勤務時は児童に神楽を指導)

がんばっています
市民の文化活動

ガラス芸術による美の追求……ステンドグラス

ステンドグラス教室　**白鳥貴美恵**

ガラス素材は芸術と成り得る。「色、異なった質感、不透明そして透明、光沢と艶消し、光を吸収し反射する。」絵画的な自然描写、又は大胆なデザイン効果の追求……。

西洋ではその歴史は永く、6世紀頃からとも言われているが、日本における制作は100年足らずのようである。しかしその魅力に心動かされ、作品を入手するにとどまらず、自分で制作を試みる人口は急増している。私の工房でも、大勢の生徒が目を輝かせ、自分の作品に対し素直に喜びを表し、生徒同士互いの作品に大きな関心を寄せている。現在、自房を例にとっても制作を楽しむ生徒数は増加し続けている。その他にも興味を持ち、経験してみたいという声は数多く聞かれるので、まだまだステンドグラスを愛する人は増えると思われる。私自身日頃の自分の作品の制作、そして建造物の為の制作に加え、ガラス芸術を通じての生徒達とのかかわり、美の追求は大きな喜びでもあります。

連絡先　工房「ル・セルフィーユ」
静岡市馬渕4丁目14－11（TEL 054-287-8272）

8年目を迎えた瓢箪栽培と加工

藁科瓢箪愛好会会長　**海瀬貫一**

私の住んでいる藁科地区にも、公民館を中心に、たくさんの愛好会があり、それぞれに実習を積んでいる。毎年7月中旬に、公民館祭りがあり、その時、作品の展示会が開かれている。私達の藁科瓢箪愛好会も仲間に入れてもらっている。「たね」播（ま）きから始めて、秋の収穫まで、栽培暦を参考に、瓢箪の成長を楽しみにしている。6月中旬には、園地巡回を行い、初めての方に教えている。

昨年のように雨が少ない年は、灌水が必要であり、虫の害が目立ってくる。また、台風の時節には、防風ネットを張って葉の保護をする。いろいろと苦労を重ねた結果の収穫時の喜びは格別である。初冬に入ると、加工の作業に入る。これも講師に手ほどきをしてもらっている。

1年を通じて、よその地区から大勢の人達が交流を願っているのを大変ありがたく思っている。健康でいつまでも瓢箪作りを続けたい。

連絡先　牧ヶ谷133　TEL 278－0173

日本の伝統ある”雅楽”に触れながら

翁雅楽会会長　**牧田明子**

父の残してくれた日本の竹の楽器を、今、こんなにも私が夢中になって学ぶ事になったのは、父を恋う気持ちからでありました。沢山の雅楽（笙（しょう）、篳篥（ひちりき）、笛、太鼓、羯鼓（かつこ）、鉦鼓（しょうこ）、譜面、入れ物、楽科緑、調律道具、装束、執り物、付け物、かざし物）の宝物（私にとっては）を見る度に、これらの物を父はよく手に入れ、また、学んだかと思うと、頭が下がります。それをこれから先、私が一つ一つ紐執（と）いて、一生精進し学んでいく事が、私の使命と考えております。宮内庁式部職楽部の諸先生方より、各楽器、そして宮中舞楽までもとご指導を仰ぎ、お蔭様で私の時代に、舞楽装束、面等を手に入れ、本年度で自主公演も第八回目”11月17日（日）”を迎える事が出来るようになりました。日本の”音色”を身近に求められ、私共と是非ご一緒に触れてみませんか！

（公演－午後2時・6時　翁稲荷社にて）
連絡先　静岡市稲川1丁目　TEL 285－1667

この秋、静岡音楽館AOI

静岡音楽館AOI学芸員
小林　旬

静岡音楽館ＡＯＩでは、10月18日から11月９日まで「ＡＯＩ音楽祭'96秋」を開催します。ピアノ四重奏、ソプラノ、チェンバロ、ヴァイオリンのほか、様々なコンサートをお楽しみいただければと思いますが、そのシリーズのなかから、ちょっと異色なコンサートをご紹介します。

11月３日の「民俗と都市の芸能」と題した公演では、静岡市の有東木の盆踊りと福島県白河市の「天道念仏さんじもさ踊り」を上演します。有東木の盆踊りは、室町時代のころのものかと思われる唄が伝えられており、たいへん貴重なものです。全体としてぐっと素朴な印象をうけますが、唄の旋律はとても音域が広く、他の地域に伝わる唄と比べても豊かな音楽性を備えているといえます。また、踊りの最後に「送り出し」といって、「お盆」に帰ってきた祖霊を再び送りだす儀式があるのですが、この時に唄われていた唄が長いあいだ伝承されずに、失われたままになっていました。しかし今回のホールでの上演を契機に古い録音が見つかり、復曲されることとなりました。非常に難しいといわれている唄ですが、どのようにして唄われていたのか、とても期待されます。

福島県白河市の「天道念仏さんじもさ踊り」は「虫追い」をして豊作を祈願する祭事ですが、終わりごろに２人の若者が向かいあって太鼓を激しく打ち鳴らす「曲打ち」は聴きどころです。この勇壮で複雑な「さんじもさ」の太鼓のリズムや有東木の唄などの多くの民俗芸能は、私たちはあまり接する機会のないものですが、不思議と私たちの感覚にしっくりと馴染んできます。

この公演ではほかにも『平家物語』を琵琶の伴奏で語る平曲、静岡音楽館ＡＯＩ芸術監督の間宮芳生の作曲、同企画委員の大岡信の詩による《昔噺おいぼれ神様》を併せて上演します。有東木や白河の民俗芸能に対し、この２つは時代を超えた「都市の芸能」といえます。平曲は「語りもの」の音楽としてよく知られていますが、《昔噺おいぼれ神様》も「現代の語りもの音楽の傑作」といわれ、間宮、大岡両氏の「日本語の響き」に対するなみならぬ才気が溢れています。「都市の芸能」が語りもの音楽に限られるわけではありませんが、ここで紹介する「民俗と都市の芸能」を聴きくらべ、観くらべてみると、普段聴き慣れたつもりの「クラシック音楽」とは違った、私たちの音楽、または私たちの文化のルーツが見えてくるはずです。

有東木の盆踊り

芹沢銈介美術館通信

第45回展

●芹沢銈介コレクションより

土と炎の造形

－東洋のやきもの－

●同時開催　芹沢銈介作品展

芹沢銈介は沖縄の壺屋の生地を使って、自ら焼物の絵付けを試みたこともあり、土と炎が生み出す陶磁器に対し並々ならぬ関心を示していました。

昭和の初期には民芸運動の指導者柳宗悦と共に日本全国の窯場を巡り、赤絵を念頭に置いた型絵染作品「東北窯めぐり六曲屏風」などを生み出しています。

今回紹介するものは、芹沢銈介の眼にこころよく映じた日本・中国・朝鮮半島・タイなどのアジア各地の陶磁器類を中心に置いています。日本からは縄文式土器・江戸期の染付や各地の窯の陶器・磁器、朝鮮半島からは李朝陶磁器、中国では彩陶・明代の赤絵、タイのバンチェン土器など幅広いジャンルの展示をゆっくりご鑑賞ください。

なお、芹沢銈介の作品からは色鮮やかな「知恩院荘厳飾布下染」「四季曼荼羅（まんだら）図二曲屏風」「鯛泳ぐ文着物」などの代表作を出品いたしますので合わせてお楽しみください。

インフォメーション

■開館時間　9：00～16：30（受付終了）
■入館料　大人410円・学生250円・小人150円
■休館日　祝日を除く月曜日、祝日の翌日
10月31日（木）
年末年始（12月24日～１月３日）

静岡市立 **芹沢銈介美術館**

〒422　静岡市登呂５-10-５（登呂公園内）
TEL 054-282-5522

●静岡市立児童会館

パソコン体験・工作教室

とき／10月26日（土）～27日（日）
9：00～12：00と13：00～16：00
対象／主に小・中学生　無料
内容／・パソコン体験（マウスを使ってエネルギーゲームに挑戦　パソコン20台）
・工作教室（コースター作り、動く木工工作）
共催／科学技術館・静岡市立児童会館

静岡市親子写生大会

とき／11月３日（日・祝日）
会場／駿府公園　登呂遺跡　用宗漁港
9：00～13：00（受付9：00～11：30）
３日雨天の場合は４日（月・休日）に実施
会場／駿府公園のみ
対象／どなたでも　無料
<問い合わせ先：静岡市立児童会館　☎252－6161>

INFORMATION

● 静岡市立児童会館

－10月～12月の行事案内－

種類	開催月日	行事名	会費
企画展示	10/26(土)～ 11/10(日)正午まで	第44回静岡県学生児童発明工夫展 第19回静岡県未来の科学の夢絵画展	無料
	11/21(木)～12/1(日)	第24回静岡市親子写生大会作品展	
	12/ 7(土)～ 1/5(日)	第７回児童会館子どもデザイン展	
自由参加行事	10/26(土)～27(日) 9:00～12:00 13:00～16:00 10/26(土)13:30～ 10/26(土)18:30～20:30	パソコン体験・工作教室 （科学技術館・児童会館共催） 子ども映画会〔自然の中の動物たち〕 星を見る会（注）	
	11/3(日) 9:00～13:00 雨天翌日 11/ 9(土)10:30～と13:30～ 11/ 9(土)18:00～20:00 11/10(日)13:30～と15:30～ 11/10(日)14:00～ 11/17(日)13:30～ 11/23(土)13:30～ 11/23(土)18:00～20:00	第24回静岡市親子写生大会 わくわく広場〔砂絵を描こう　紙で作ろう〕 星を見る会（注） サイエンスショー 子ども映画会 手作り工作〔カタカナ人形作り〕 子ども映画会 星を見る会（注）	
	12/ 1(日)13:30～ 12/ 8(日)13:30～と15:30～ 12/14(土)10:30～と13:30～ 12/14(土)18:00～20:00 12/15(日)13:30～ 12/22(日)13:30～	子ども映画会 サイエンスショー〔うずまきパワー〕 わくわく広場〔マカロニリーフを作ろう〕 星を見る会（注） 子ども映画会 手作り工作〔メリーゴーランド作り〕	

（注）：雨・曇りの場合中止　　問い合わせ先：静岡市立児童会館　☎252－6161

● Hotひといきコンサート

・アコースティックギター　・ジャズボーカル

・混声合唱　・ピアノ、クラリネット、ビオラ

と　き／12月10日（火）・11日（水）・12日（木）・13日（金）の12：00～13：00

ところ／静岡市役所新館１Ｆラウンジ

問い合わせ先：静岡市文化振興財団　（☎054－255－4746）

徳力彦之助作 ルネッサンスの工芸 美の伝統を承け継ぐ

金唐革

Torayа

HEAD SHOP
7, KONYAMACHI, SHIZUOKA, JAPAN TEL.054/252/2669

株式会社トラヤ

静岡市紺屋町７〒420 テレフォン054/252/2669 ファクス054/252/1582

編集後記

黒澤脩氏の、原石（冬眠状態）から宝石（魅力の発信）へ、という貴重な言葉をかみしめています。

笛の調べの中に、祖先のどんな思いがこめられているか、何気なく歩いている道にも、車で走り過ぎてしまう道にも、どういう生活があったのか等々、みな発見への基礎だと思います。

静岡文化情報『街かど』　第７号

平成８年10月30日

編集・発行

（財）静岡市文化振興財団

〒420 静岡市追手町５番１号

（市役所７Ｆ）文化振興課内

TEL・FAX（054）255-4746

印　刷　株式会社 三 創

静岡市中村町166-1

禁無断転載・複写

見る工場

STEP IN たまるや

静岡新名所

●静岡I.Cより車で5分 ●焼津I.CよりR150経由で車で25分 ●静岡駅より車で15分

わさびの知識から
お土産まで
わさびのことなら
全部見せます。

見てから買うか、買ってから見るか。
順番はお客様のお好みしだい。
とにかく、じっくりわさびを楽しんでいってください。

営業時間 9時～18時 年中無休

田丸屋本店グループ

有限会社 田丸屋観光開発

本 社／〒420 静岡市紺屋町6番地の7
営業所／〒421-01 静岡市下川原5-34-20

ニッコリ イイパパ
☎054(256)1188(代)
FAX.054(256)1100

見る工場は
見学無料!!

明治・大正時代現在地店舗

わさび漬ねだんの変遷

	容量	価格		容量	価格
一九四六（昭21）年	四〇匁	三〇円	一九七三（昭48）年(6)	三〇〇g	三〇〇円
一九四九（昭24）年	四五匁	五〇円	一九七三（昭48）年(11)	三五〇g	四〇〇円
一九五四（昭29）年	四〇匁	五〇円	一九七四（昭49）年	三〇〇g	四〇〇円
一九六〇（昭35）年	一六〇g	三〇円	一九七六（昭51）年	二七〇g	四〇〇円
一九六三（昭38）年	三〇〇g	一〇〇円	一九七八（昭53）年	二九〇g	五〇〇円
一九六五（昭40）年	二〇〇g	一〇〇円	一九七九（昭54）年	二六〇g	五〇〇円
一九六七（昭42）年	一八〇g	一〇〇円	一九八四（昭59）年(1)	二二〇g	五〇〇円
一九六九（昭44）年(1)	三五〇g	二〇〇円	一九八八（昭63）年	二二〇g	五〇〇円
一九六九（昭44）年(12)	二一〇g	二〇〇円	一九八九（平1）年	二二〇g	五二〇円
一九七〇（昭45）年	二六〇g	二〇〇円	一九九〇（平2）年	二四〇g	六二〇円
一九七一（昭46）年	二三〇g	二〇〇円	一九九二（平4）年	二四〇g	七二〇円
一九七三（昭48）年(2)	三三〇g	三〇〇円	一九九五（平7）年	二四〇g	七二〇円

（注）静岡県のおみやげ用容器入り（小樽）1個当りの小売標準価格
1989年以降消費税込みの価格 （ ）内の数字は月を示す

SINCE 1850
小泉樓
味の名所

創業嘉永参年
わさび漬

株式会社 小泉樓本店
静岡市紺屋町3の5 TEL054（252）0622